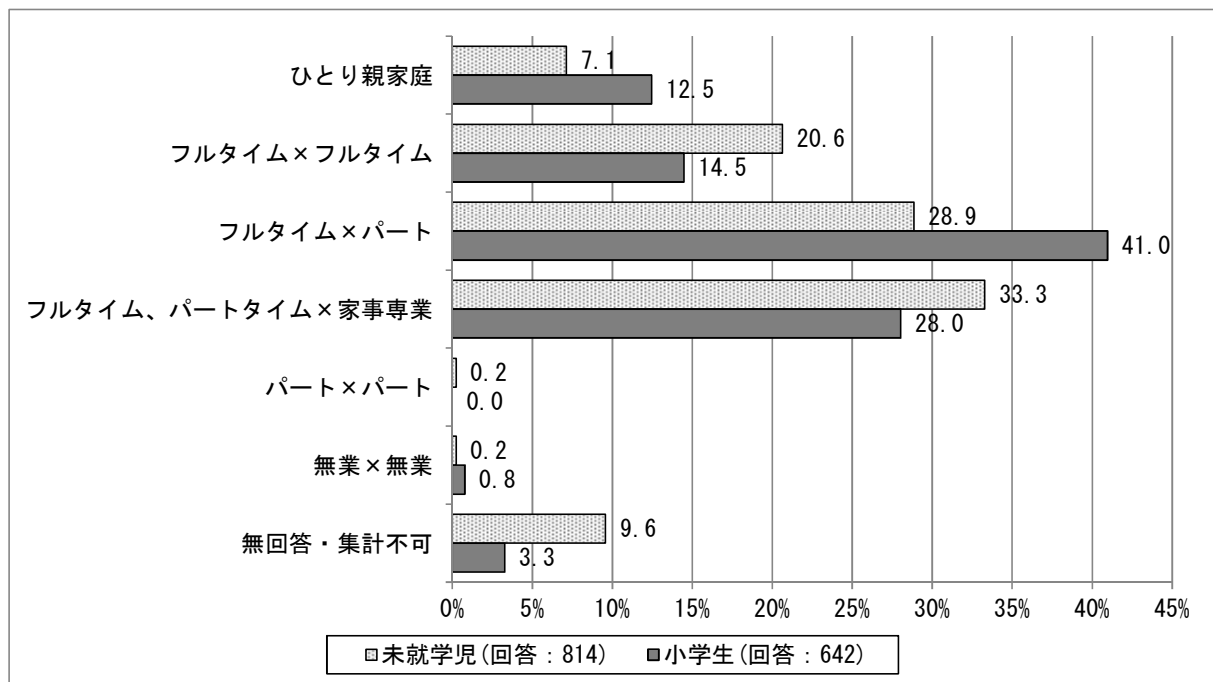


## 子ども・子育てニーズ調査結果の概要について

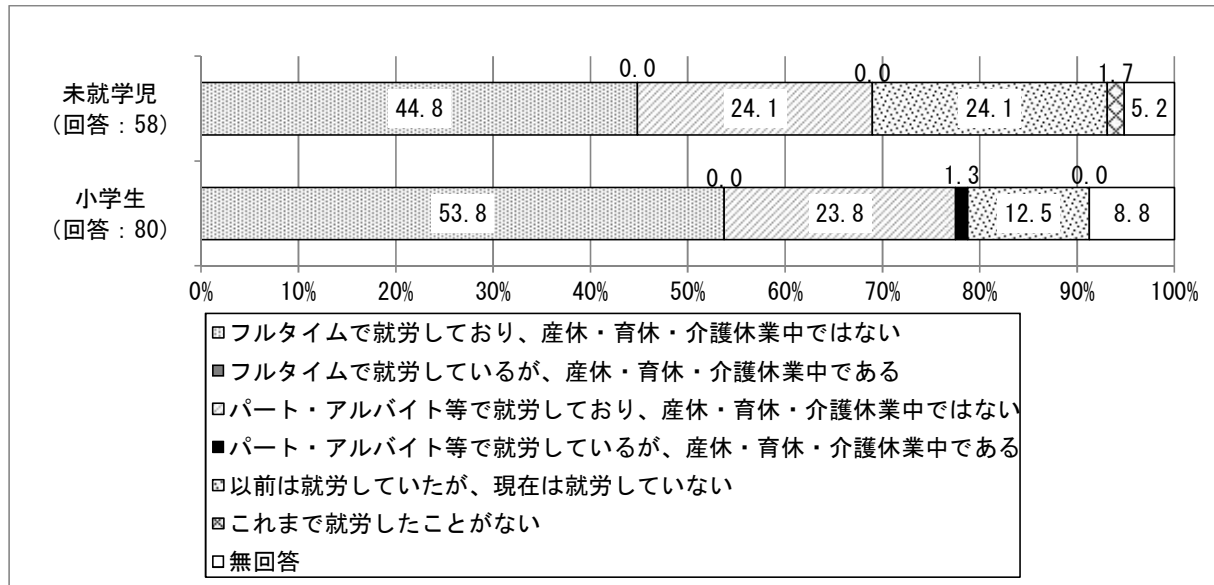
### (1) 保護者の就労状況－家庭類型（未就学児・小学生共通）

- 保護者の配偶者の有無を参考に、『市町村子ども・子育て支援事業計画における「量の見込み」の算出等のための手引き』（内閣府）に準じた家庭類型の区分を行いました。
- 「ひとり親家庭」は、未就学児で7.1%、小学生で12.5%となっています。
- 「無業×無業」は、未就学児で0.2%、小学生で0.8%となっています。
- 「ひとり親家庭」と「フルタイム×パートタイム」は小学生、「フルタイム×フルタイム」と「フルタイム、パートタイム×家事専業」は未就学児で比較的高い割合となっています。

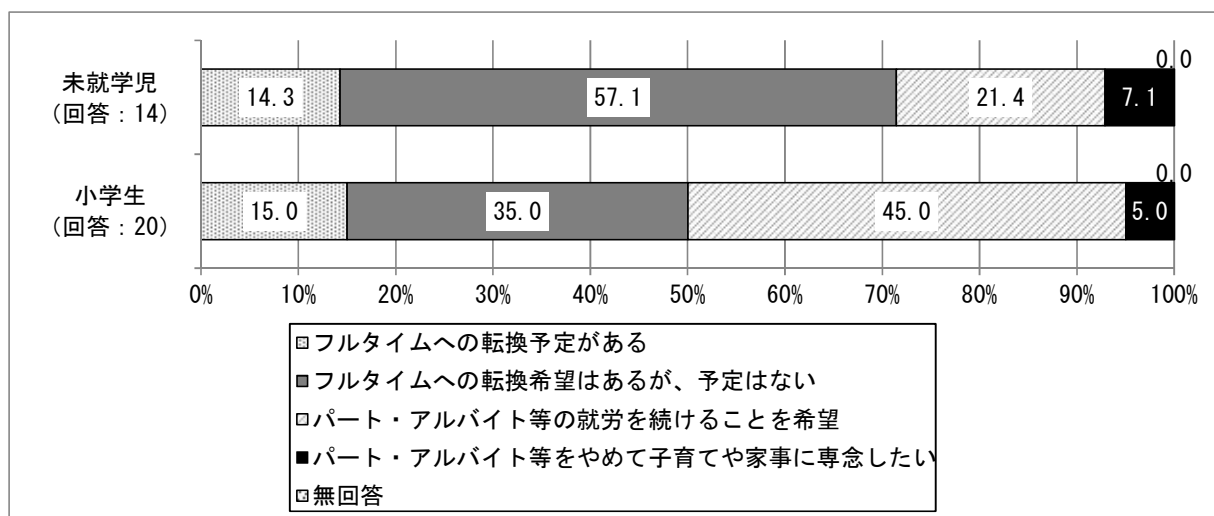


## (2) ひとり親家庭の母親の就労状況（未就学児・小学生共通）

- ひとり親家庭の母親の就労状況は、未就学児、小学生とも「フルタイムで就労しており、産休・育休・介護休業中ではない」の割合が最も高くなっています。
- 未就学児、小学生とも「フルタイムで就労しているが、産休・育休・介護休業中である」の回答はみられません。また、未就学児では「パート・アルバイト等で就労しているが、産休・育休・介護休業中である」の回答もなく、育児休業中の母親はみられません。
- 「これまで就労したことがない」は未就学児では1.7%（1人）みられますが、小学生では回答がみられません。

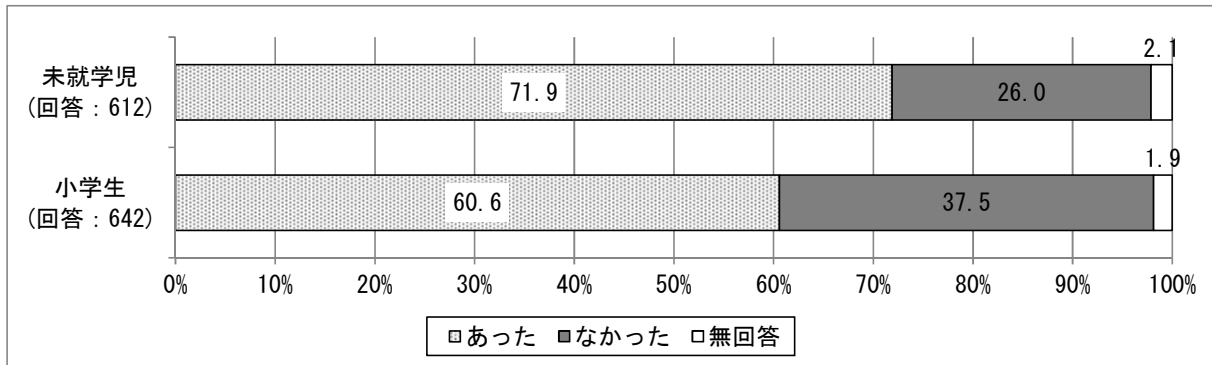


- パート・アルバイトで就労している母親（ひとり親家庭）の今後の転換希望は、未就学児では「フルタイムへの転換希望はあるが、予定はない」が57.1%（14人中8人）、小学生では「パート・アルバイト等の就労を続けることを希望」が45.0%（20人中9人）と最も高い割合となっています。

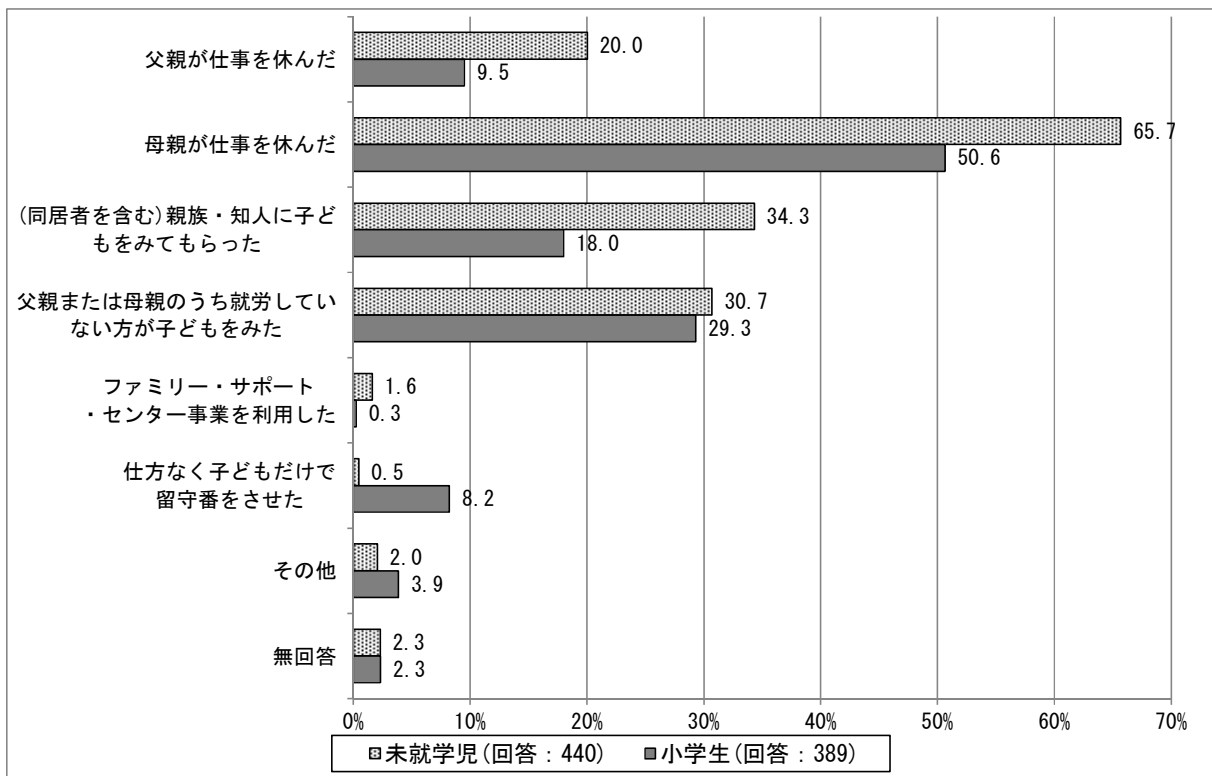


### (3) 子どもの病気・ケガ時の対応（未就学児・小学生共通）

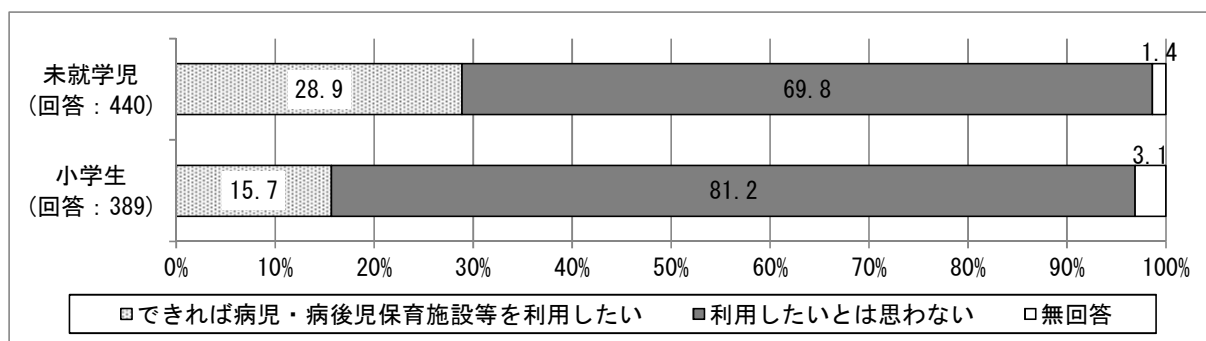
- 病気やケガで教育・保育事業、学校を休んだことがある児童は、未就学児では71.9%、小学生では60.6%となっています。



- 子どもが教育・保育事業、学校を休んだ際の対処方法は、未就学児、小学生ともに「母親が休んだ」の割合が最も高く、未就学児では65.7%、小学生では50.6%となっています。
- 2番目に回答が多かった項目は、未就学児で「(同居者を含む)親族・知人に子どもをみてもらった」(34.3%)、小学生では「父親または母親のうち就労していない方が子どもをみた」(29.3%)となっています。なお、「父親または母親のうち就労していない方が子どもをみた」は小学生で29.3%ですが、未就学児では30.7%となっており、小学生より高い割合となっています。
- 未就学児と小学生の傾向を比較すると、「仕方なく子どもだけで留守番をさせた」では小学生の割合が高くなっていますが、その他の項目では未就学児の割合が高くなっています。

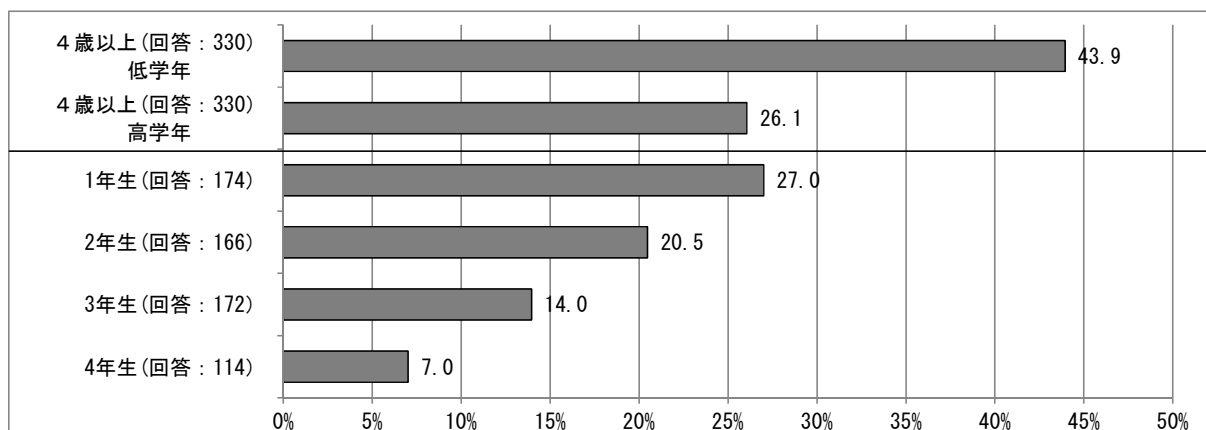


- 子どもが教育・保育事業、学校を休んだ際に親が休んだ家庭における、病児・病後児保育の利用意向は、「できれば病児・病後児保育施設等を利用したい」は未就学児で28.9%、小学生では15.7%となっています。



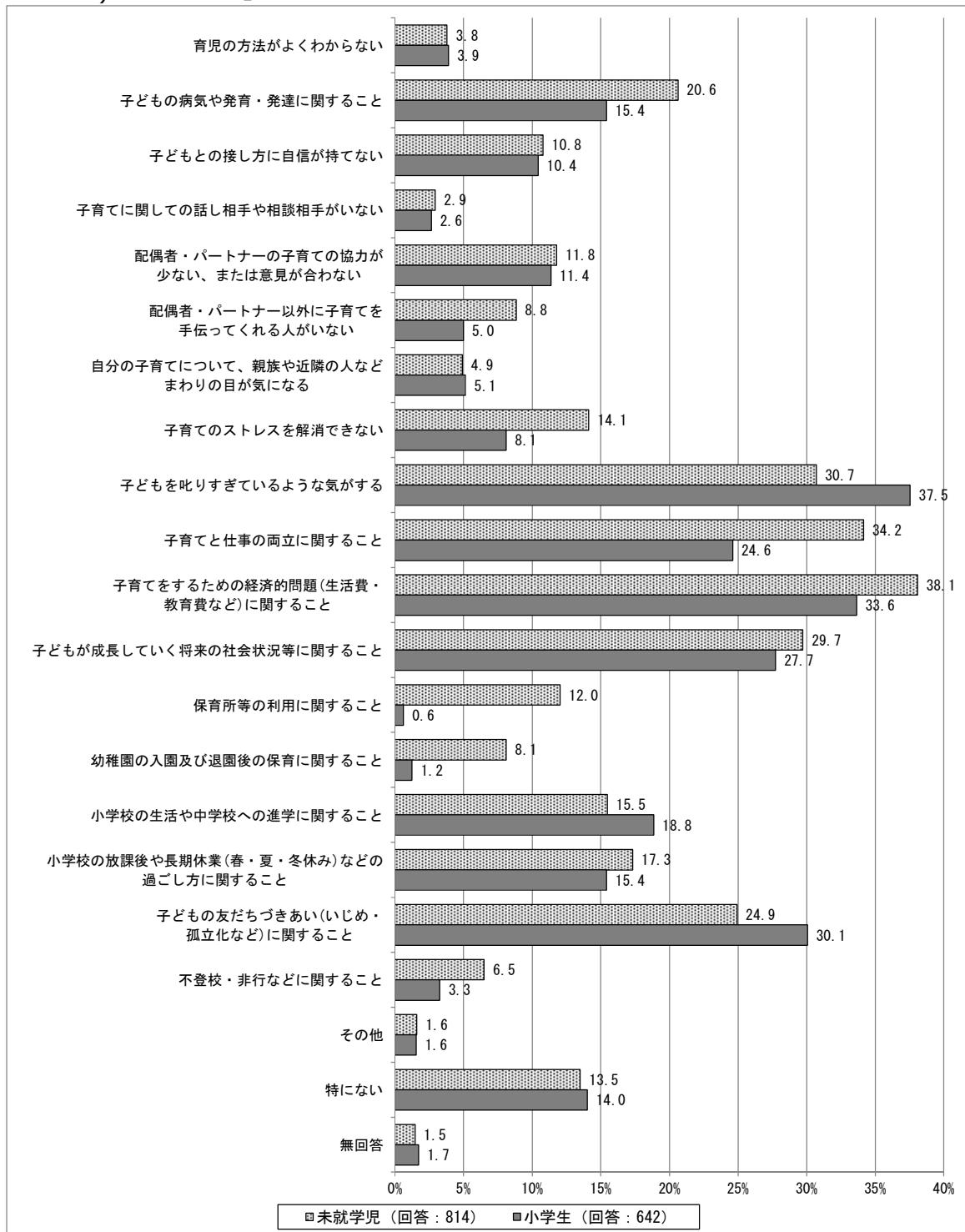
**(4) 放課後児童クラブ (学童保育) の利用希望 (未就学児…4歳以上、小学生)**

- 未就学児 (4歳以上) の放課後児童クラブの利用希望は、低学年には43.9%、高学年には26.1%が希望しています。
- 現在の小学生 (1~4年生) の利用希望は、1年生で27.0%となっていますが、学年の上昇とともに割合が低下し、4年生では7.0%となっています。

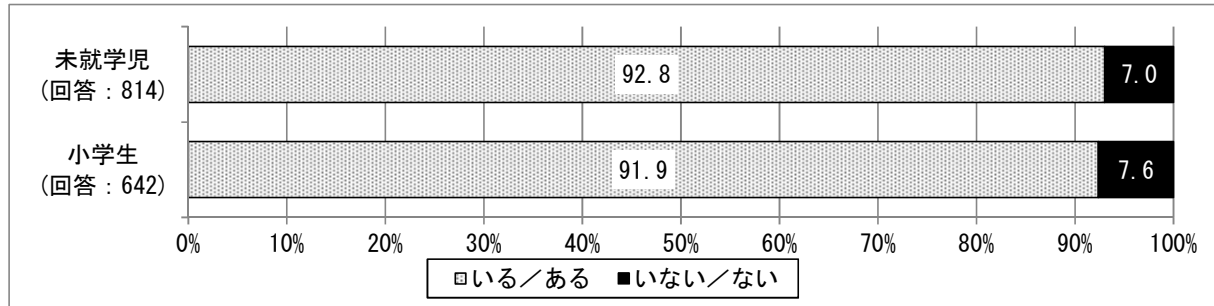


### (5) 子育ての相談について (未就学児・小学生共通)

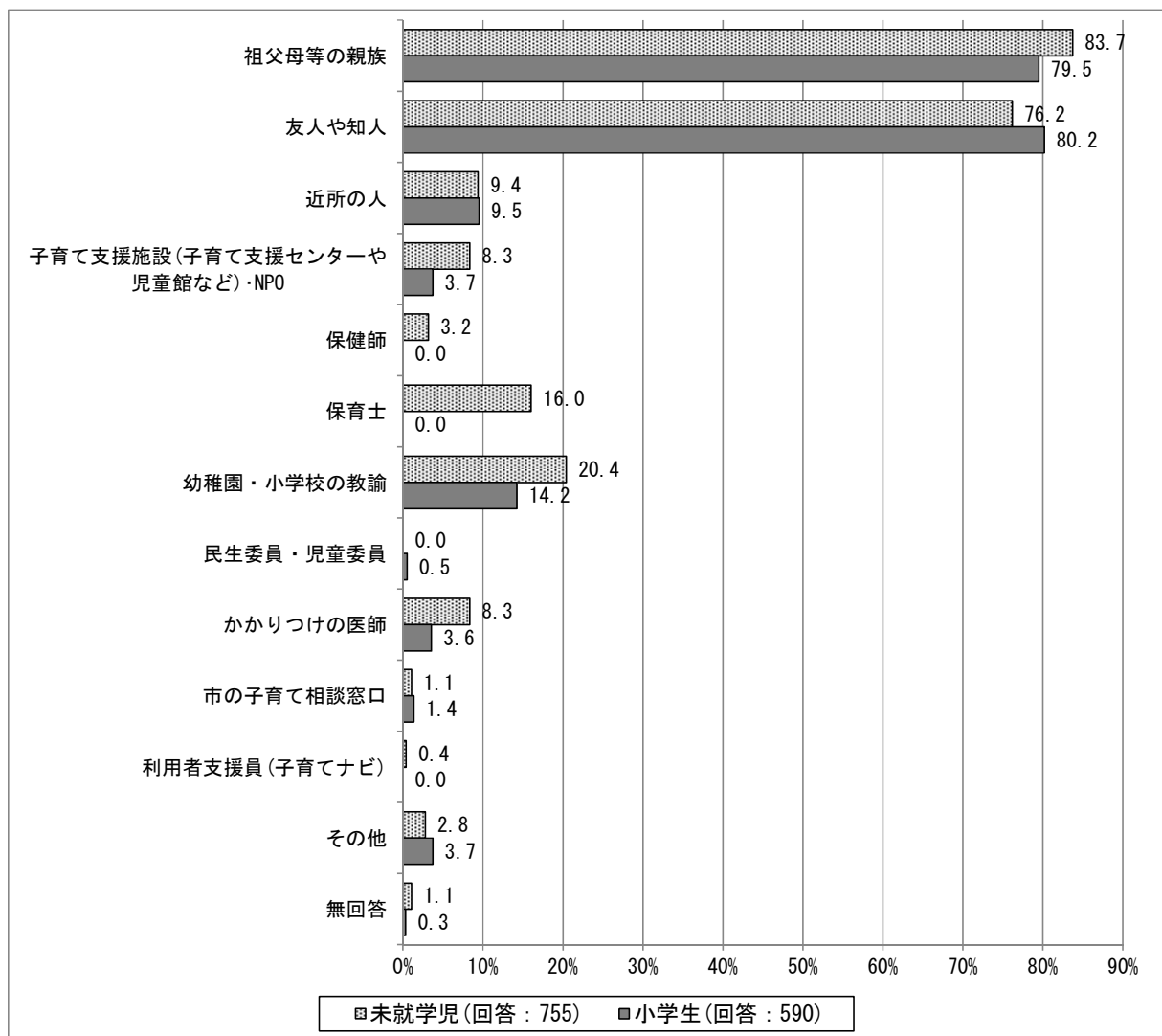
- 子育ての悩み・不安について、未就学児では「子育てをするための経済的問題(生活費・教育費など)に関すること」が38.1%、小学生では「子どもを叱りすぎているような気がする」が37.5%と最も高い割合となっています。
- 未就学児と小学生を比較すると、未就学児では「子どもの病気や発育・発達に関すること」と「子育てのストレスを解消できない」、「子育てと仕事の両立に関すること」、「保育所等の利用に関すること」、「幼稚園の入園及び退園後の保育に関すること」の5項目、小学生では「子どもを叱りすぎているような気がする」と「子どもの友だちづきあい(いじめ・孤立化など)に関すること」の2項目で、比較的高い割合となっています。



- 子育ての相談相手・相談先の有無について、「いる／ある」の回答者が未就学児で 92.8%、小学生で 91.9%となっています。
- その一方で「いない／ない」の回答が、未就学児で 7.0%、小学生で 7.6%みられ、未就学児、小学生ともに相談相手をもたず、悩みごとを抱え込んでしまう可能性のある保護者が 7～8%程度いるとみられます。

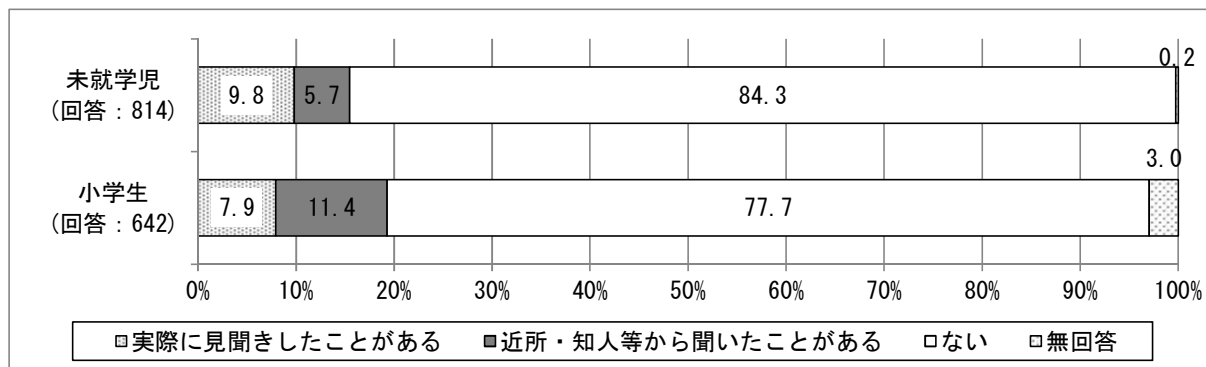


- 子育ての相談相手は、未就学児では「祖父母等の親族」が 83.7%、小学生では「友人や知人」が 80.2%と最も高い割合となっています。なお、未就学児、小学生とも「祖父母等の親族」と「友人や知人」の割合が高く、その他の項目では未就学児で「保育士」と「幼稚園の教諭」、小学生で「小学校の教諭」が 10～20%台となっているほかは、10%以下となっています。

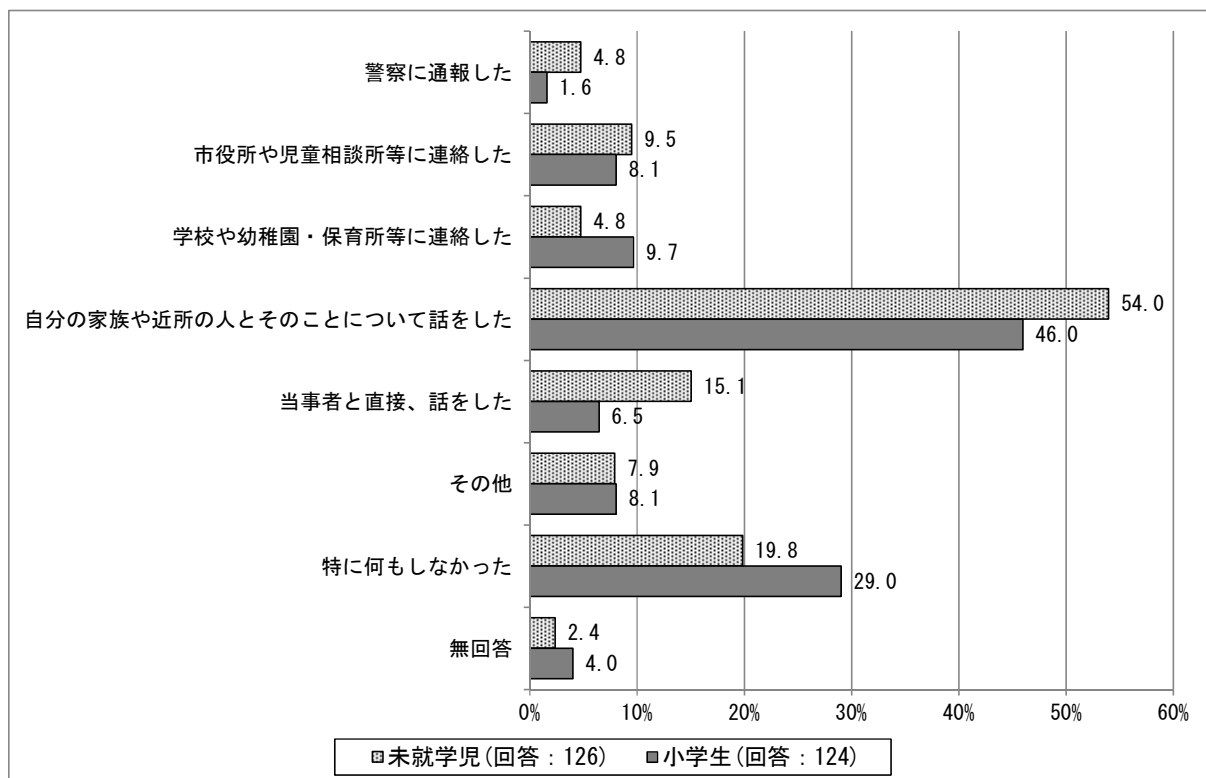


## (6) 児童虐待（未就学児・小学生共通）

- 児童虐待を見聞きした経験について、未就学児では「実際に見聞きしたことがある」が9.8%、「近所・知人等から聞いたことがある」が5.7%となっており、合わせて15.5%（120人）が児童虐待を身近に経験しているとみられます。
- 小学生では「実際に見聞きしたことがある」が7.9%、「近所・知人等から聞いたことがある」が11.4%となっており、合わせて19.3%（124人）が児童虐待を身近に経験しているとみられます。

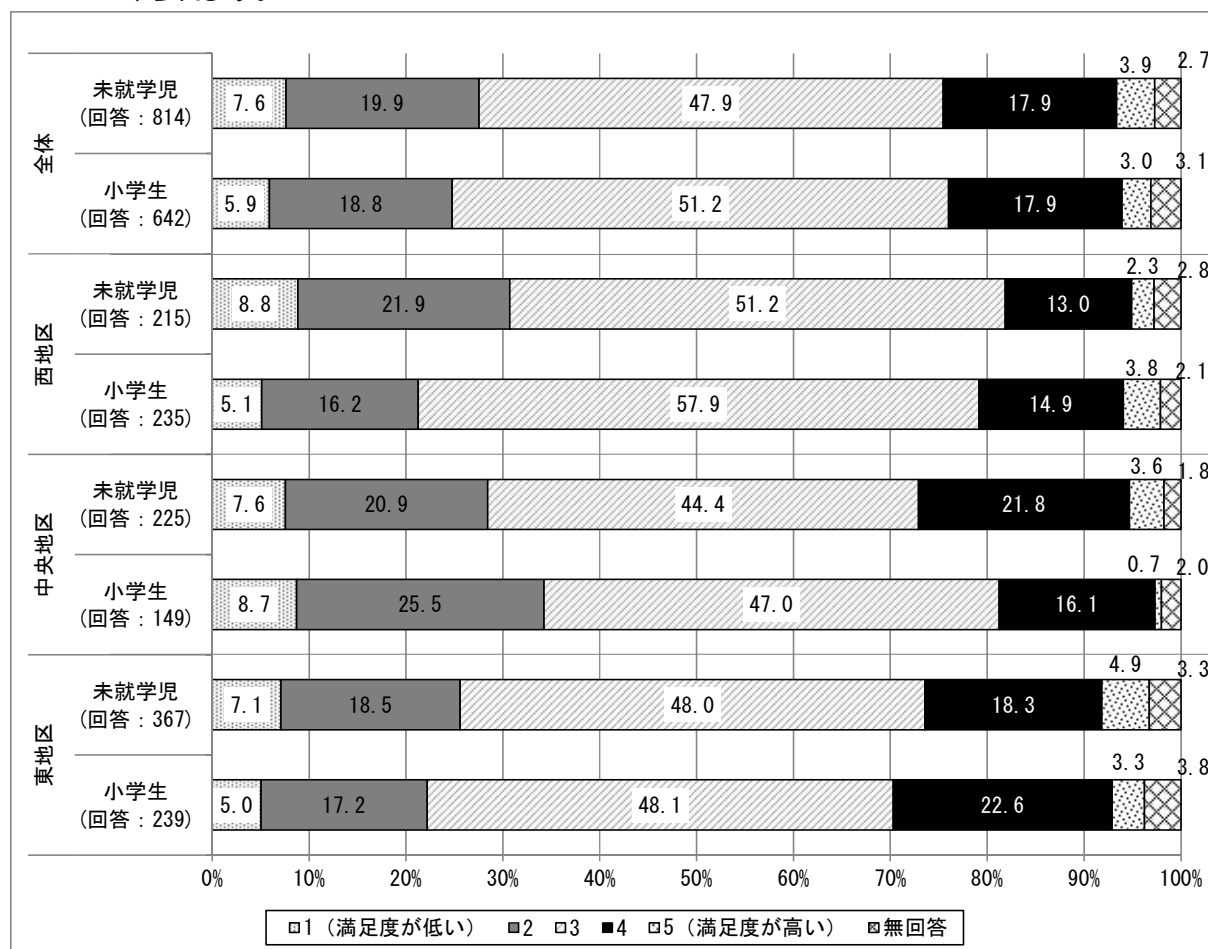


- 児童虐待を身近に経験したときの対応について、未就学児、小学生ともに「自分の家族や近所の人とそのことについて話をした」の割合が最も高く、未就学児で54.0%、小学生で46.0%となっています。
- なお、「特に何もしなかった」は、未就学児で19.8%、小学生で29.0%となっています。
- 未就学児と小学生を比較すると、未就学児では「自分の家族や近所の人とそのことについて話をした」と「当事者と直接、話をした」の2項目、小学生では「学校や幼稚園・保育所等に連絡した」と「特に何もしなかった」の2項目で比較的高い割合となっています。



### (7) 居住地域の満足度（未就学児・小学生共通）

- 居住地域の満足度を市全体でみると、未就学児、小学生ともに「3」の割合が最も高く、未就学児で 47.9%、小学生で 51.2%となっています。また、満足度が低い「1」は未就学児で 7.6%、小学生で 5.9%となっています。
- これを居住地域別、調査対象別でみると、各区分とも「3」の割合が最も高くなっています。
- また、西地区の未就学児では「1」が 8.8%、「2」が 21.9%と、合わせて 30.7%が比較的満足度が低いとみられます。同様に、中央地区の小学生では「1」が 8.7%、「2」が 25.5%と、合わせて 34.2%が比較的満足度が低いとみられます。
- その一方で、中央地区の未就学児では「4」が 21.8%、「5」が 3.6%となっており、合わせて 25.3%（225 人中 149 人）が比較的満足度が高いとみられます。同様に東地区の小学生では「4」が 22.6%、「5」が 3.3%となっており、合わせて 25.9%が比較的満足度が高いとみられます。





### (8) 市に期待する子育て支援施策（未就学児・小学生共通）

- 市に期待する子育て支援施策は、未就学児では「保育所や幼稚園にかかる費用負担を軽減してほしい」が57.2%、小学生では「安心して子どもが医療機関にかかる制度を拡充してほしい」が50.5%と、最も高い割合となっています。
- なお、未就学児では「親子または子どもが遊べる公園等の施設を増やしてほしい」が53.9%となっており、小学生で最も割合が高い「安心して子どもが医療機関にかかる制度を拡充してほしい」より高い割合となっています。

